

課題名：いちご狩り向け栽培品種の検討

1. 目的 現在、越谷市内では章姫、紅ほっぺ、とちおとめが主に栽培されている。昨年度の試験と同様に、上記 3 品種以外にいちご狩り用として栽培できる品種の選定・栽培方法を検討するべく、収量・糖度などのデータ収集を行う。
2. 期間 平成 25 年 9 月～平成 26 年 5 月
3. 場所 種苗温室 B
4. 方法

(1) 試験概要

以下の品種の収量、果重、糖度について調査する。

- 1) かおり野
- 2) やよいひめ
- 3) 育成品種②※
- 4) 育成品種⑤※
- 5) 桜香
- 6) 彩のかおり

※育成品種②、育成品種⑤とは、都市型農業経営者育成支援事業の第 1 期研修生（研修期間 H22.7.1～H24.6.30）が交配した品種。交配に用いた品種など、詳細については記録残っておらず不明。

また、土培地とクリプトモス培地の試験区を設定し、比較を行う。

・土培地…軽石、活性炭、バーク（樹皮）、パーライトが混合されている培地。

・クリプトモス培地…杉、檜などの樹皮でできた培養土。

試験区	培地	給液
②	クリプトモス培地+固体肥料	水
③	クリプトモス培地+固体肥料	養液（EC 1.4）
④	土培地	養液（EC 1.4）
⑤	土培地	養液（EC 2.0）

(2) 栽培装置

パイプ固定したプランターに培地を詰めた高設栽培装置(誠和イチゴステーション同等システム)。灌水チューブにより給液。

(3) 供試品種

1) かおり野

試験区②～⑤各24株

2) やよいひめ

試験区②～③各24株

試験区④～⑤各16株

3) 育成品種②

試験区②～⑤各8株

4) 育成品種⑤

試験区②～⑤各8株

5) 桜香

試験区②～⑤各8株

6) 彩のかおり

試験区②～⑤各8株

(4) 施肥・給液

育苗期: EC0.5の養液を3日に1回のペースで灌水する。

定植期: 試験区②③には、固形肥料【誠和製「ベリーエナジーEX」10株あたり330g(10a換算330kg)】を施肥。

試験区②には水を、試験区③④には EC1.4 の養液を、試験区⑤には EC2.0 の養液を給液する。

(5) 調査項目

収量、果重、糖度

(6) 栽培暦

かおり野

定植 9/24、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 11/22～5/30

やよいひめ

定植 9/24、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 12/13～5/30

育成品種②

定植 9/24、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 11/22～5/30

育成品種⑤

定植 9/25、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 11/27～5/30

桜香

定植 9/25、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 12/10～5/16

彩のかおり

定植 11/13、ミツバチ導入 10/25～5/31、収穫 1/3～5/30

5. 結果

(1) 収量の比較

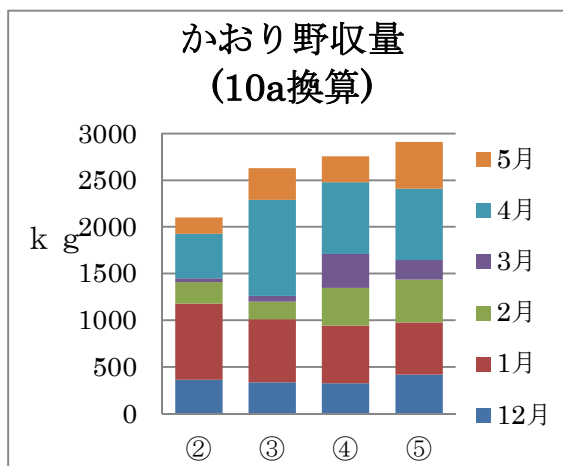


図 1、「かおり野」収量グラフ

・「かおり野」では、試験区②③④⑤の順に徐々に大きくなった。

・どの試験区も 4 月の収量が最大であった。

・試験区⑤の「かおり野」は 6 品種のうち一番収量が多かった。

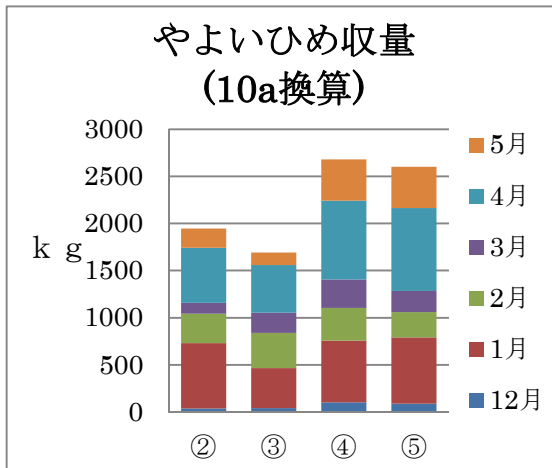


図 2、「やよいひめ」収量グラフ

- ・「やよいひめ」では、③②⑤④の順に収量が大きくなった。
- ・試験区②は1月、その他の試験区は4月の収量が最大であった。
- ・試験区②と③を比較すると、どちらも固形肥料が入っているが、③にはさらに液肥が入っているにもかかわらず収量が少なかった。

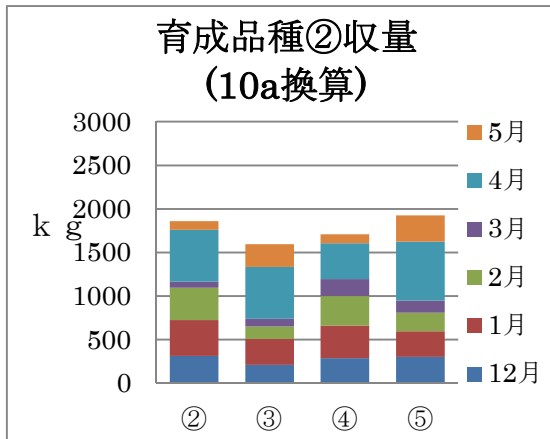


図 3、「育成品種②」収量グラフ

- ・「育成品種②」では、③④②⑤の順に収量が大きかった。
- ・「やよいひめ」と同様に②と③の逆転現象が起きた。
- ・どの試験区も4月の収量が最大であった。
- ・「かおり野」とは異なり、②が③より多く、⑤に近い値となった。

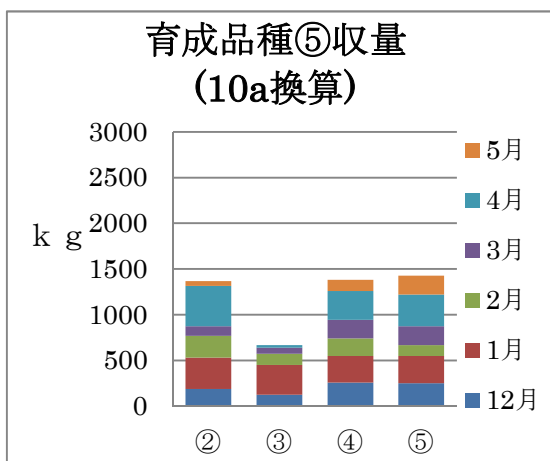
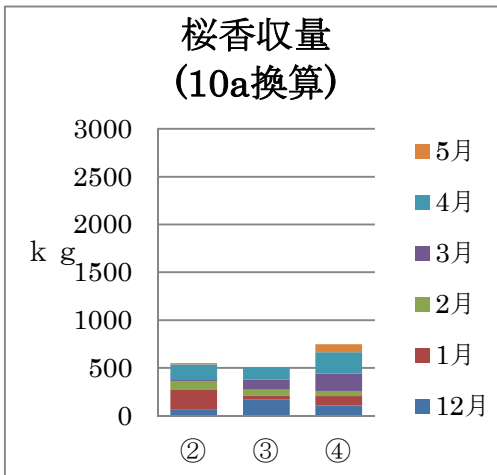


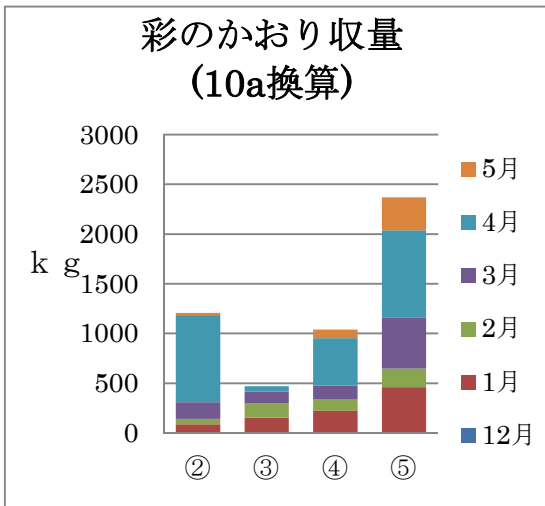
図 4、「育成品種⑤」収量グラフ

- ・「育成品種⑤」では、③の収量が一番少なく、②④⑤がほぼ同等になった。
- ・「やよいひめ」と同様に②と③の逆転現象が起きた。
- ・試験区③は1月、その他の試験区は4月の収量が最大であった。



- ・「桜香」は試験区⑤は枯れてしまったため、株を撤去した。
- ・試験区③②④の順に収量が大きかった。
- ・試験区②、③は同等の収量、④はその1.5倍量であった。

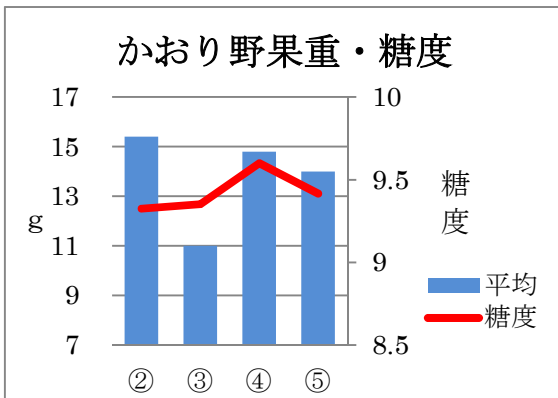
図5、「桜花」収量グラフ



- ・「彩のかおり」は③④②⑤の順で収量が大きくなった。
- ・③は1月、②④⑤は4月の収量が最大となった。
- ・③④⑤を比較すると④は③の2倍以上で、⑤は④の2倍以上の収量となった。

図6、「彩のかおり」収量グラフ

(2) 平均果重・平均糖度の比較



- ・試験区③以外は平均果重が13gを超えた。
- ・試験区③だけ平均果重が11gと少なかった。
- ・試験区②～⑤の平均果重は13.8g。
- ・平均糖度はほぼ横ばいであった。

図7、「かおりの」果重・糖度グラフ

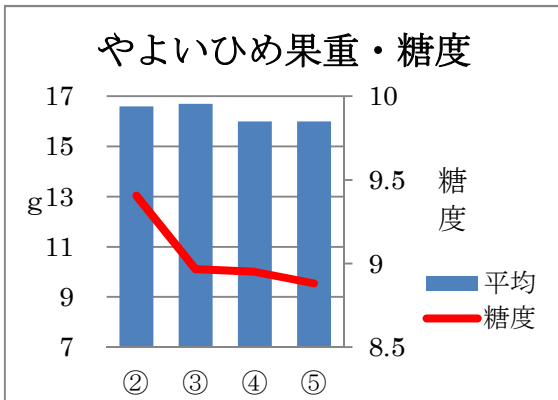


図8、「やよいひめ」果重・糖度グラフ

- ・6品種のうち一番平均果重が大きくなった。
- ・すべて16g台で安定していた。
- ・試験区②～⑤の平均果重は16.3g。
- ・平均糖度は試験区②だけやや高かった。

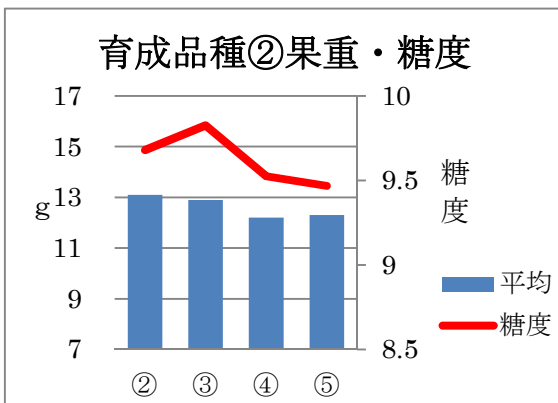


図9、「育成品種②」果重・糖度グラフ

- ・試験区②～⑤まで安定した平均果重であった。
- ・試験区②～⑤の平均果重は12.6g。
- ・平均糖度はほぼ横ばいだが、試験区③が一番高かった。

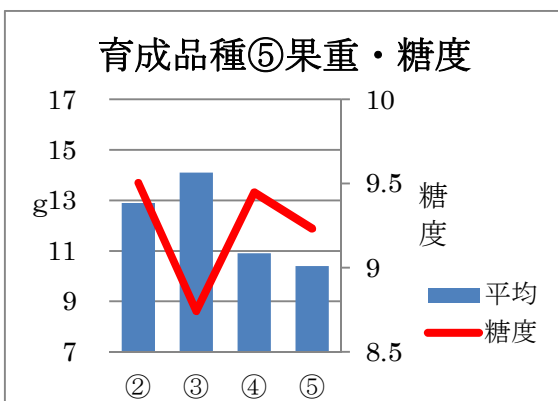
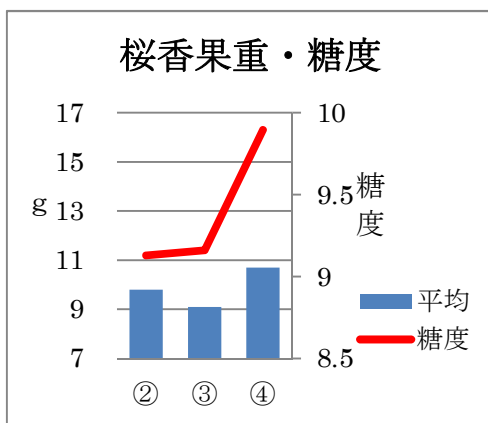


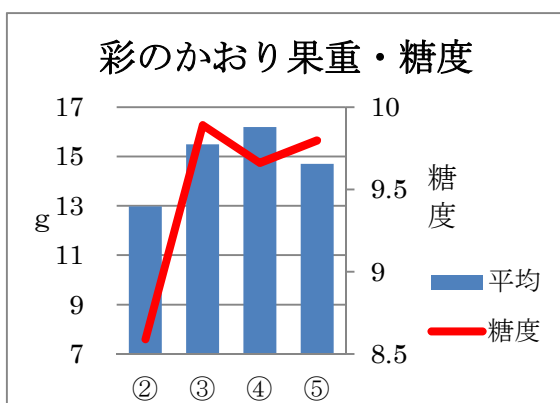
図10、「育成品種⑤」果重・糖度グラフ

- ・試験区③の平均果重が一番大きかった。
- ・試験区②～⑤の平均果重は12.1g。
- ・平均糖度は試験区③だけ極端に低く、9以下となった。



- ・試験区⑤は枯れてしまったため、株を撤去した。
- ・平均果重は9～11g台に安定していた。
- ・試験区②～⑤の平均果重は9.9g。
- ・平均糖度は試験区④が極端に高く、試験区②③は横ばいであった。

図11、「桜花」果重・糖度グラフ



- ・試験区④の平均果重が一番大きく、次いで試験区③が大きかった。
- ・試験区④と⑤を比較すると、「かおり野」と同様に肥料が濃い⑤よりも④の方が大きくなっていた。
- ・試験区②～⑤の平均果重は14.7g。
- ・平均糖度は試験区②だけ③～⑤と比較して1以上低くなった。

図12、「彩のかおり」果重・糖度グラフ

6. 栽培状況



写真1 全体



写真2 かおり野



写真3 やよいひめ



写真4 桜香枯れ

7. 考察

「かおり野」の収量では、給液が水の試験区②よりも、養液の試験区③④⑤の方が収量は多くなった。「かおり野」は水よりも養液の方が適していると考えられる。

また、給液が同じ養液で、培地が異なる試験区③と試験区④を比較すると、全体の収量の差は小さいものの、試験区③は4月の収量が多く、試験区④は2~3月の収量が多くなっていた。つまり、試験区④は試験区③に比べ毎月安定した量を収穫できているとわかる。

さらに、養液の濃さが異なる試験区④と試験区⑤を比較すると、養液の濃い試験区がわずかに収量で勝っている。上限はあるだろうが、養液が濃いほど収量が多くなる結果となった。

「かおり野」の果重は試験区③だけ極端に低いものの、糖度はほぼ横ばいである。収量、果重、糖度を総合的に判断すると、試験区④と試験区⑤の条件が好ましいと推察する。

前年度の試験栽培で観光農園に適した品種と判断した「やよいひめ」は試験区④と試験区⑤の収量が多く、試験区②や試験区③のように、クリプトモス培地に固形肥料+水を施肥するよりも、土培地に養液を施肥することが好ましいと判断できる。

また、「やよいひめ」の果重は全ての試験区で16.0gを超えていて、6品種の中でも突出していた。糖度は試験区②が一番高く、9前後の数値で安定している。

このような結果から「かおり野」と「やよいひめ」はイチゴ狩りに適していると思われる。